

I. 巻頭言

『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2007』に引き続き、『年次報告2008』を刊行いたします。

東北大学埋蔵文化財調査室は、施設整備などに先立つ、構内遺跡の記録保存のための調査と、それに関連する業務を担当する、東北大学の特定事業組織です。『年次報告2007』の巻頭言においても記しましたが、このたび東北大学埋蔵文化財調査室では、『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』を、新たに刊行いたします。

これまで埋蔵文化財調査室では、『東北大学埋蔵文化財調査年報』（以下『調査年報』と略記）を、1から24まで刊行してきました。この『調査年報』には、発掘調査以外の各種事業を含む当該年度に実施した事業の概要報告と、実施した発掘調査報告の両方を、併せて掲載してきました。

発掘調査の報告については、整理作業に時間を要するため、『調査年報』の刊行は、調査実施年度から数年後となるのが通常でした。そのため、事業概要の報告が遅くなっていました。また、調査報告を併せて掲載すると、頁数の多い大冊となることも多く、調査室の概要を知っていただくという目的には、必ずしもふさわしくないものでした。このような理由から、年度ごとの事業概要の報告と、発掘調査の報告を、分離して刊行していくこととしました。今後は、年度ごとの事業概要については、『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』という形で、毎年報告していく予定です。

『年次報告』は、調査室の事業概要を迅速に報告するという目的のため、翌年度の早い時期に刊行する体制にしていこうとします。できるだけ早く、このような刊行体制に移行していくため、『年次報告2007』に引き続き『年次報告2008』を刊行する次第です。また、調査室の事業について、より広くご理解いただけるよう、わかりやすいものにしていきたいと考えております。

本調査を実施した発掘調査報告については、『東北大学埋蔵文化財調査室調査報告』というシリーズ名で、各調査ごとに、調査報告書を刊行していく予定です。それぞれの調査について、整理作業が終了次第、順次刊行していくこととしたいと考えています。

本年次報告では、埋蔵文化財調査室が2008年度に実施した埋蔵文化財調査の概要、およびその他の調査室が実施した事業について概要をとりまとめて、報告いたします。2008年度は、川内北地区の厚生会館増改築工事に伴う調査、前年度まで調査を実施していた地下鉄東西線機能補償関係の調査で出土した遺物の整理作業などが、事業の中心となりました。学内外の関係機関や関係者のご協力を得て、滞りなく事業を進めることができました。ここに厚くお礼を申しあげるとともに、今後もご支援とご協力をお願いいたします。

埋蔵文化財調査室長 阿子島 香